２０２０年
５月号
NO. 0093

カトリック笹丘教会
教会ニュース

福岡市中央区笹丘１-16-１
TEL761-4504　fax761-4524
広報委員会

新たな気持ちで外に向かう為に

主任司祭　遠山満

新型コロナウイルスの感染拡大は少し収まってきましたが、未だ先が良く見えず、世界が委縮してしまったかのように思える日々が続いております。このような状況の中、先日５月14日（木）を、教皇フランシスコは、祈りと断食と愛の業の日とされました。そこで今回私達は、再度私達の生活の中で、祈りと断食と愛の業を通して、何を目指すのかについて考えてみましょう。

まず、祈りについてですが、以前、生活聖化委員会でアンケートが取られた時、「祈りは何処でも、いつでもやれるので、特別に時間を取ってやっていない」というような回答がありました。祈りについて、確かにそのように言う事も出来ますが、教会では、伝統的に祈りに時間を割く事を教えて来ています。それでは、何故私達は、祈りにわざわざ時間を割くのでしょうか。それは、私達の時間に対する愛着を捧げる為です。私達は、時間を大切にしています。「時は金なり」と言います。時間が有れば、自分の為に使いたくなります。そのような思いを捧げるのです。ある一定の時間を、イエス様と過ごすのです。教会の聖櫃の前、或いは自宅の家庭祭壇の前、或いは自室に飾っている御絵の前で、静かに時を過ごして、その時間を捧げるのです。勿論、その時間を充実したものとする為の工夫も必要です。けれども、何よりも必要なのは、時間を捧げようとする心です。

断食は、自分に対する愛着を捧げる為です。私達は、何かにつけ、自分、自分、自分です。自我に囚われています。その自分に対する愛着を捧げる事が、断食です。

愛の業、つまり施しは、物に対する愛着を捧げる為です。私達は、物に囚われています。物に囚われている為、施しが出来ないのです。物に囚われ、自分に囚われ、時間に囚われ、がんじがらめになっている私達が、その状態から解放されるように、教皇フランシスコは祈りと断食と愛の業の日を定められたのです。

今回の出来事を通して、私達は少し自分に閉じこもりがちになっているのかもしれません。こんな時でも、私達は、祈りを通して、外に出て行きましょう。フランシスコ・ザビエルは宣教者の保護の聖人ですが、幼きイエスの聖テレジアも宣教者の保護の聖人である事を忘れないようにしましょう。私達の教会の祭壇の中に、聖遺物が埋められている、この聖女の取次ぎを願いながら、私達が、祈りと断食と愛の業を通して、外に向かっていく事が出来ますように願いましょう。

２度目の緊急事態宣言がないように願いましょう！

マイケル・ヒルデン

コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの人が、家族以外の交わりの場を失ってしまったことを考えると一人暮らしの高齢者も若者も、とても寂しい毎日を過ごしているだろうと心配しているところです。皆が今の試錬がもたらす孤独の気持ちに負けないで、逆に心をささえる希望を見出せるように、人がいない礼拝堂で毎日ごミサを捧げています。
笹丘教会の皆さんが、イエス様との繋がりと人間同士との繋がりを深めたい心を保ち、愛の勝利の光を照らす主に向かって、希望に満ちた心で日ごとに一歩ずつ、安心できる日にたどり着く力を神に朝晩願いましょう。

１９１８年のインフルエンザで父親の兄弟姉妹二人が亡くなったことを子供の頃に何回も聞いたことがあります。自分が体験したことのない出来事を現実的に認めることは難しいのではないでしょうか。今のパンデミックから、多くの命を奪われる悲しみを現実として受け止めるつらさを、深く味わうことから逃れることはできません。自分の命の脆さを再確認しながら、神の無条件の愛の約束も再確認する恵みを祈り求めましょう。

外出自粛の時期を耐えてきた私たちの心は、現在どういう状態になっているでしょうか。平安の状態でしょうか。苛立ちの状態でしょうか。５５年前に自分が自由に選んだ外出絶対禁止の一年の期間を過ごしたことを思い出します。それは、感染拡大防止のためではなく、修道生活に習う目的として、修練院で外出のない一年間の生活を送ったことです。自分の身体の動きを自粛することによって、自分をより良く知るようになります。自分の良いところと良くないところ、また自分の心の良い動きと乱れている動きを意識することによって、自分がより自由に大切なことを判断する力をいただくことになります。今のとても多くの不便な制限を、冷静に守ることが難しく感じられることがありながらも、今の試練のうちにたくさんの良い物を発見できるチャンスに心の目を向けることを、決して忘れないように懸命に祈り求めたいと思います。

笹丘カトリック幼稚園の子供達の元気な声が聞こえず、非常に寂しい毎日です。子供の存在は当たり前なことと考えてはいけませんね。一人ひとりの小さな命はすごいもので、大きな喜びと希望を与えてくれる奇跡だということを意識していきたいと切に望むようになりました。同じように、周りにいる人々の存在がどれほどかけがえのない存在であるかを見過ごさない心を頂く恵みを願いましょう。大きな滅びへとつながる小さなウイルスに打ち勝つため、不滅の愛と感謝の小さな実践をもって、勝利に向かって、前進しましょう。

洗礼式 5月10日（日）

受洗おめでとうございます!!

新型コロナウィルス感染予防のため集まりは禁止。時期を象徴するマスク着用、ご当人と代母のみで式が行われました。

聖体拝領 初聖体

新しい家族をお迎えできた喜びを皆で分かち合いましょう！！

行きましょう　主の平和のうちに。神に感謝。

マザーの愛した祈り

マリアのみこころよ

イエスの母であるマリアよ、あなたのこころをわたしにください。
あなたのこころは美しく、清く、けがれなく、愛と謙遜に満ちています。
わたしもいのちのパンのなかにおられるイエスを、受け取ることができますように。
あなたが愛したようにイエスを愛することができますように。
貧しいなかでも最も貧しい人々のこころ痛む姿のなかにおられるイエスに、仕えることができますように。

愛する子どもたちへ　マザー・テレサの遺言
写真/編集　片柳弘 s.j.　ドン・ボスコ社より

～～～～ “コロナショック” 今、思うこと ～～～～

コロナからの厳しい挑戦は回心のチャンスを与えてくれた

川原義広

ある日 「コロナ・ウイルスから人類への手紙」という文章が目に留まった。

『地球は囁きました、でもあなたは耳をかさなかった
地球は話しました、でもあなたは聞かなかった
地球は叫びました、でもあなたは耳を塞いだ

そして、私は生まれました
・・・私はあなたを罰するために生まれたのではありません・・
あなたの目を覚ますために生まれたのです』

今年に入って最後のミサは灰の水曜日の朝ミサだった。それからまさかこんなに長くごミサに与れない日々が続くとはとても想像ができなかった。そして、まず聖水盤の使用中止に始まって、聖堂入堂前の手指消毒の徹底、さらに公開ミサの中止。教会は信仰共同体なのに信者が一同に会することが出来なくなった。さらにお互いを遠ざけ、親しく話すことすらコロナは許してはくれない。

教会ではいつものように桜は満開、そしてつつじもきれいな花を咲かせた。しかし、テレビ・ラジオでは毎日、毎日「昨日の感染者数は、死亡者数は・・・」私はもう麻痺して段々、一喜一憂すらすることもなく、慣れっこになってしまった。それぞれの数字の後ろには病魔との闘いで苦しんでいる人、最期の別れさえも出来ず嘆き悲しみ、涙している家族、親類、知人がいるというのに。

コロナは言う、『私はあなたの目を覚ますために生まれたのです』 人びとが感染して苦しんでいるのも、リスクを抱えながらも医療従事者を必死に働かせているのも、多くの人々を経済的に追い込んでいるのも、人と人との絆を壊そうとしているのも、それもこれも私が隣人の声に耳を貸さなかったせいなのか、これから私はどうしたらいいのか、

しかし、コロナは後段でこうも言っている、
『あなたの隣人を愛し始めてください、地球とその生き物を大切にし始めてください』
信仰者を少しでも自負していたとすれば、そんなことはコロナが来る前から分かっているはずだったのではないか。何故こんなに犠牲を払うまでわからなかったのか、気づいていても実行しなかったのか。
皮肉にも四旬節とともにコロナは来た、「回心して福音を信じなさい」灰を額に受けた時の言葉。今、私の信仰者としての生き方が問われている、キリストの教会である共同体のあり方が問われている。
コロナは最後にこう言い残して去って行った。
『この次は、私はもっと強力になって帰ってくるかもしれないから・・・』
「コロナ禍をチャンスにしましょう。愛し合いましょう、お互いを大切にしましょう。お互いに優しくしましょう、隣人の声なき声にアンテナを張りましょう。さあ出来ることから始めましょう、家族はもちろん、隣人も、そして地球も、生き物も、すべて神様がお造りになったものだから。」

用心を忘れずに！

私が幼かった頃（昔）家の台所に「火の用心」と書いた赤い紙が貼ってあったのを思い出す。「火の用心！」「火の用心！」と夜回りを町内会で行っていた。最近すっかり忘れていた。

今私達は日々の生活で便利になり過ぎて忘れてしまった事がたくさんあるのでは？神が創造された物を蔑ろにしていたのでは？思い出しましょうあの頃を　用心！用心！新型コロナウィルスが今私達に挑戦しているのです。まだ、どこか人ごとではありませんか？用心あっての安心だったのだと、新型コロナ感染症で気づきました。手洗い、手指消毒、うがい、マスク、　・・・

2018 年、女性の会の講演で講師であったアウグスチノ修道会の平野神父様が、ありがとうの反対は、「あたりまえ」とあの優しい声で話されたのを思い出しました。「あたりまえ」が増えていじめが増えた。「あたりまえ」が増えて、不満も増えた。「あたりまえ」が増えて無関心になった。「あたりまえ」が増えて、神に感謝が無くなった。用心は自分の為だけでなく、人の為の用心でもあるのです。互いに愛し合いなさい、神に感謝を忘れずに❣

共に集い、神に感謝を捧げ、「主の平和！」「主の平和！」と挨拶を交わす日を待ち望み、真剣に生きる（祈る）用心を忘れずに！　　（K.K）

長いパンデミックの中で心に感じたことは、目に見えない一致の大切さと、やはり神様は私達一人ひとりに回心を求めておられるということだ。

ロザリオ光の神秘第 3 の黙想「イエス、神の国の到来を告げ、人々を回心に招く」が心に広がる-

回心をするということは、自分が罪人であることを認める事から始まるのだと思う。神様の憐れみなしには、一秒たりとも生き長らえる事のできない弱い人間であることを。私達は主の祈りで『わたしたちの罪をお赦しください、わたしたちも人を赦します』、アヴェ・マリアの祈りで『わたしたち罪人のために今も死を迎えるときもお祈りください』と祈っている。

心から回心する事によって、聖霊が豊かに注がれ、イエス様のように、真に人を愛することができるのではないだろうか。日々過ちを犯す自分自身に、日毎の痛悔が最も必要なのは言うまでもない。

聖霊降臨を迎えるにあたり、かつてマリア様と共に祈っていた使徒たちの上に聖霊が降った様に、今この世界に聖霊が降り注ぐよう、改めて聖母マリア様の取り次ぎを願っている。　　（A.S）

キリストの家族

―― 第２回目は松尾さん親子です ――

〔14 班〕

幼少期を救い、見守って下さったマリア様が大好きで、大人になり、やっと念願だった洗礼のお恵みを笹丘教会で授けていただきました。

求道者のお勉強会中に長女が産まれ、その後一緒に洗礼に与れたことは、とても大きな喜びでした。

次女にも恵まれ、今は３人で教会のお世話になっています。

２人の娘を妊娠中、“無事に産まれ、育ちますように”とロザリオの珠をにぎりしめて、祈っていたことをいつも思い出します。

その祈りを受け入れてくださり、私たち３人は笹丘教会の優しく親切な方々や大好きな子供たちに支えられて、たくさんの事を学び、成長させてもらえている今があります。数えきれない喜びと幸せを与えて下さったイエス様、マリア様、神父様をはじめとする教会の皆さんと子供たちに心から感謝しています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

原稿募集

引き続き、家族紹介の記事を募集しています。内容は自由です。

教会の事、家庭の事、お仕事、趣味、将来の夢、信仰について等々。今後、個人の方々も載せていく予定です。

お声掛けさせて頂いた際は、差し支えなければご協力頂けると幸いです。

広報委員一同

「レジオマリエ」をご存じですか？

第9回

新型コロナウィルス感染症の世界的拡大の中でご復活を迎え、1ヶ月が経ちました。感染症収束の糸口は未だ見えず、状況は混沌としてきているように見えます。 それでも多くの人たちが、日常生活を平常時と同じように続ける努力をしているようです。仕事はもちろん食事や睡眠、室内でできるような運動やレクレーションなど。 スポーツ選手の自宅トレーニングの動画などは、運動音痴の自分でもできそうだな、と思わせてくれます。 一流料理店の料理人の動画は、家庭でもプロが作ったようにおいしくできる料理を教えてくれます。 人々の分断を煽るような言動をする一部の政治家とは裏腹に、直接会ったり話したりできなくても私たちが同じ気持ちになれるように、様々な分野で努めている人たちがたくさんいます。

私たちレジオマリエの会員も、毎週の集会や病者訪問などができない状況の中、個別のお祈りの他、会員同士だけでなく、気になる方々に電話をしたり、手紙を書いたり、今できることを考えながら過ごしているところです。

今回も、亡き松永久次郎司教様の本の中の、心に響いた箇所を紹介させていただきます。

「復活はキリストの決定的勝利であると共に、私たちキリスト者の栄光と希望の基礎となるものです。

十字架はキリストにとって中心的なもの、基本的なものですが、復活の栄光もまたキリストにとって本質的要素なのです。そして、真のキリスト者はキリストの十字架に与ると共に、キリストの栄光にもまた与ります。この世では苦しみを受けますが、御父のもとでは栄光の冠をいただくのです。私たちは己が定めとして、十字架の犠牲を喜んで受け入れますが、同時にキリストにおいて、その栄光に与ることを強く待ち望む者であります。

・・・略・・・キリストにおいて現れる私たちに神は、小さき僕となり、最も下積みの奉仕の中にも働きなさいますが、無限に偉大であり、栄光の座につき、最高の威厳に包まれているお方なのです。そしてこの神は、私たちにへりくだりと奉仕をお求めになりますが、同時に、私たちをご自分の生命と品位に招き入れ、私たちにご自分の幸せを分かち与えることをお望みなのです。 実に、私たちの救いはキリストの勝利であり、キリストの栄光の豊かさは、私たちに栄光を与えることによって示されます。 ・・・略・・・

キリスト者は敵を見かえしてやるために、この世の人々に復讐するために勝利をめざし、栄光を求めるのではありません。神の栄光がより広く現れるために、神のお恵みが自分に及び、全人類に及ぶことを願って、栄光の日を待ち望むのであります。

キリストの復活は、私たちにとっても勝利であり、栄光です。それは生命と平和の充満なのであります。（松永久次郎著「ロザリオのこころ」より）

教皇様は、ご復活のミサで、感染者や死者など直接的な影響を受けた人々のため、介護施設で働く人、一時収容施設や拘置所にいる人のため、パンデミックによって孤独に苦しんでいる人や失業した人々、医療従事者や警察官のために祈られました。 私たちも、心を1つに祈り続けます。

（2020.5.13 ファティマの聖母の記念日に）

お知らせ
カリスタジャパンの「新型コロナウィルス感染症緊急募金」受付
郵便振替：00170－5－95979
加入者名：宗教法人カトリック中央協議会　カリタスジャパン
＊記入欄に「新型コロナ緊急募金」と明記してください。
詳細はカリスタジャパンのホームページをご確認ください。
https://www.caritas.jp/

＊教会のお持ちになって、教会からまとめて送金することもできます。
お越しの際はご一報くださると助かります。

編集後記

コロナで外出自粛が叫ばれ始めた３月のある日、昔、鳥飼教会の若婦人会で数年お付き合いがあった康子さんが亡くなったとご主人から葉書が届きました。前の旦那様と離婚をして、福岡からお里のある東京へ帰られてからは保険の仕事をしながら一人娘を育て上げ、保険の営業先で知り合った今の優しいご主人と５０歳を過ぎて再婚。軽井沢にもお家を買われ、東京と行ったり来たりしながら、いきいきと過ごす様子を Facebook でうかがっていました。お料理、手芸、庭づくり、 歌、踊り、乗馬、なんでもこなすチャーミングな女性でした。胃がんの再発だっ たそうです。

亡くなる前に洗礼を受け、クララ康子として軽井沢のショーの教会に眠るそうです。ご主人の葉書を読み終えた後、あの頃のことをいろいろ思い出しました。人を喜ばせることが大好きで、人生を精一杯前向きに生きた方だったなあ、と。

一生って短い.. 私も残り短い...。お籠りの中、コロナ肺炎で思いがけない死を迎える方々のニュースを耳にすると、否応なく人生で何が大事かとあらためて自分に問う日々です。(F.K)